

長崎の蘭館医の系譜

慶長8年（1603年）長崎・酒屋町にサンチャゴ病院創立。

慶長14年（1609）平戸和蘭商館設立される。将軍家光時代の寛永13年（1636）長崎出島の築造成る。幕府はポルトガル人を出島から追放、

同18年（1641）平戸和蘭商館を出島へ移す（鎖国の完成）。蘭館医 **Jeuriaen Hasselingh**、外科を日本人に教える。長崎の名工・藤原九左衛門らが南蛮紅毛流の外科器械を製作。

慶安2年（1649）蘭館医 **カスパル・スハンベルゲル** 渡来、通詞 西 玄甫らに紅毛医術を伝授（紅毛流外科興る）。同4年（1651）長崎・万屋町で開業の南蛮医栗崎道喜没（86歳）。承応3年（1654）向井元升「紅毛外科秘要」著わす。明暦2年（1656）Christovao Ferreira（ポルトガル人で拷問の末改宗し帰化、沢野忠安を名乗る）の遺稿を西 玄甫が訳し、これを向井元升が著わし「乾坤弁説」と題し万治元年上梓。

寛文元年（1661）平戸藩医嵐山甫安、長崎留学。同2年（1662）天然痘流行（3.28まで死者2318人）。蘭館医 **アルマンス・カツツ** 来朝、嵐山甫安直ちに師事し外科を学ぶ。同6年（1666）杉本忠恵を幕医に採用。同10年（1670）西 玄甫、医業を開き **西流外科** を興す。延宝元年（1673）西玄甫、幕医に召される。

貞享元年（1684）長崎で疫病流行（死者7000余人）。同4年（1687）嵐山甫安、初めて兔唇手術を行なう。元禄元年（1688）蘭館医 **ホフマン** 来日、大通詞榎林春斎（鎮山）師事して外科を学ぶ（**榎林流** 開祖）。同3年（1690）蘭館医 **ケンペル** 来日。宝永3年（1706）榎林鎮山「紅毛外科宗伝」を著わす。

正徳2年（1712）天然痘流行（翌年3月まで患者3000余人）、**ケンペル**「廻国奇観（海外奇聞）」を刊行。延享元年（1744）清人・李仁山、長崎にきて人痘種痘法を伝える。宝暦12年（1762）**吉雄耕牛**、長崎の甚太郎にカテーテルを模造させる。明和元年（1764）五島福江・有川・宇久に疱瘡流行。

明和4年（1775）**チュンベリー**、出島に上陸。同5年（1776）福江に麻疹流行。天明3年（1783）五島岐宿に疱瘡、寛政元年（1789）五島西島（現若松町）、同5年（1793）福江領内、文化5年（1808）有川江ノ浜にも疱瘡が流行した。

文政6年（1823）蘭館医 **シーボルト** 着任し鳴滝塾を開く（1824）。同12年（1829）シーボルト、日本追放令で長崎を去る。

天保10年（1839）蘭館医 **リシュール**、牛痘苗を持参、**榎林宗建**、実地に試みるも善感せず。弘化2年（1845）福江で初めて種痘実施される。

嘉永元年（1848）蘭館医 **モーニッケ** 来日、日本に初めて聴診器を伝え、牛痘苗をもたらし翌年接種に成功。榎林宗建・吉雄圭斎、**モーニッケ**の指導を得て種痘の普及に努力。市川泰朴・賀来佐一郎、島原で初めて種痘を実施。同3年（1850）長崎の **木下逸雲**・種痘巧者として天草に迎えられ、数千人に種痘を施す。同5年（1852）～6年（1853）五島各地に疱瘡、コレラ（とんころりんと称す）蔓延した。

安政4年（1857）オランダ海軍軍医 **ポンペ**、第2次海軍伝習所医官として出島に上陸。長崎奉行所西役所で医学を開講、その後、大村町医学伝習所へ移り講義を続行。同5年（1858）長崎にコレラ大流行、忽ち県内から全国へ広がる。同6年（1859）**ポンペ**、長崎西坂刑場で死刑囚の死体解剖実習を行なう（受講者46人・シーボルトの娘イネもいた）。

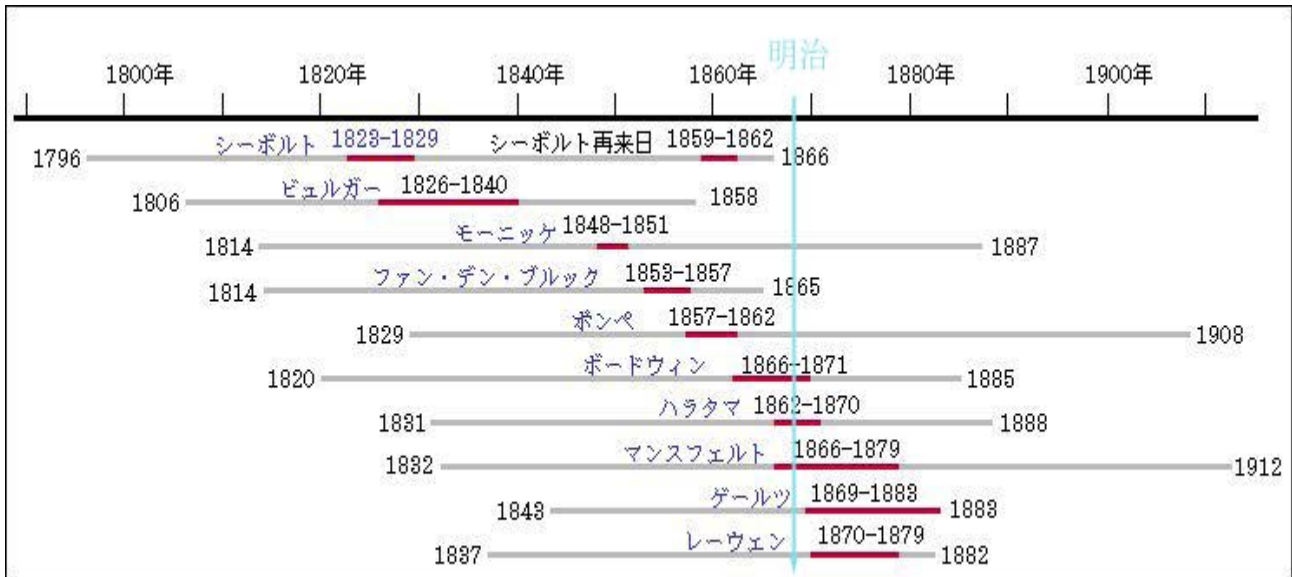
万延元年（1860）長崎稻佐の遊女の検梅始まる（日本初の検梅）。

文久元年（1860）小嶋郷佐古の地に長崎養生所・医学所完成。

同2年（1862）ポンペ帰国し**ボードウィン**と交代（長与専齋ら約100人が就学中）。同3年（1863）コレラ流行。

慶応元年（1865）養生所を「精得館」に改む。同2年（1866）**ボードウィン**に代って**マンスフェルト**着任。同4年（1868）吉雄圭齋、精得館学頭医師に撰ばれる。

主なオランダ商館医の在日期間



赤線が在日期間、灰色線の左右の数字は生没年を示す。

（長崎県医師会広報委員会委員長・宿輪亮三）